千紫万紅（せんしばんく）

久慈市立長内中学校
校報「千紫万紅」
第 ８ 号
令和8年10月30日発行

「黎明」の空に輝く星たち ～新生・長内中として迎えた初めての文化祭は大成功～



全校合唱

■ 「黎明」に込めた思い ■

10月23日（金）、久慈市文化会館を会場に、令和8年度長内中学校文化祭を開催しました。

今年度のテーマは「黎明（れいめい）」。新しい朝の始まりを意味するこの言葉には、統合初年度に新たな歴史の第一歩を力強く踏み出そうという生徒たちの思いが込められていました。

■ 一人一人が輝いた文化祭 ■

文化祭当日、生徒たちはこれまで積み重ねてきた努力の成果を存分に発揮しました。生徒会執行部によるオープニング動画、全校生徒による三崎中校歌、会場を彩った全校制作のモザイクアート、合唱イメージ画やクラスフォト、文化・芸能部による共同作品などなど、仲間と協力してつくり上げる喜びが表れていました。

ステージ発表では、吹奏楽部の演奏、英語暗唱発表、わたしの主張、特設合唱部の合唱など、多彩な発表が続きました。どの発表にも、挑戦する姿勢と仲間を思いやる気持ちが込められており、観客の皆様に大きな感動を届けることができました。また、ソーラン引継ぎ式では、3年生から後輩へ受け継がれる伝統の重みと誇りを感じることができました。

■ 心を一つに響かせた歌声 ■

中でも強く印象に残ったのは合唱です。学級合唱では、この日の発表を目標に、各学級のリーダーを中心に声を掛け合いながら練習を重ねてきました。時には思うようにまとまらなかったこともあったことでしょう。しかし、一人一人が自分の役割を果たし、よりよい合唱を目指して努力してきたからこそ、本番ではどの学級も心を一つにした素晴らしい歌声を響かせることができました。合唱の完成度はもちろんですが、それ以上に学級として団結し、一つの目標に向かって歩んできた過程そのものに大きな価値があったと感じています。

そして文化祭の最後を飾った全校合唱。会場いっぱいに広がる力強く美しい歌声は、まさに文化祭テーマである「黎明」を象徴するかのように全校生徒が輝いていました。学年や学級を超えて心を一つにした姿からは、新生・長内中学校の大きな可能性を感じました。

■ 未来へつながる新たな一層 ■

学校の文化は一朝一夕に築かれるものではありません。これまで先輩たちが大切に育んできた伝統の上に、今年

の生徒たちは統合初年度ならではの新たな一層を積み重ねてくれました。先輩たちの思いを受け継いだ1・2年生が、今後どんな長中文化の地層を積み重ねていくのか、今から楽しみです。

結びに、保護者、地域の皆様からいただいた温かなご支援に心より感謝申し上げるとともに、生徒たちがこの経験を今後の学校生活へ生かし、さらに成長してくれることを期待しています。

【 文化祭フォトギャラリー 】



















性と命について考える

～「思春期講演会」を開催しました ～

本校では、生徒が心身の成長や性に関する正しい知識を身に付け、自分や相手を大切にする態度を育むことを目的として、年２回の思春期講演会を開催しています。

９月9日（水）の第１回目（１年生と保護者を対象）は、『性の多様性』をテーマに、澤　由紀子　先生（岩手県男女共同参画センター）を講師にお招きし、性の在り方や感じ方は一人一人異なること、互いの違いを理解し尊重することの大切さについて学びました。10月30日（金）の第２回目（２・３年生と保護者を対象）は、秋元義弘　先生（元・県立中部病院）を講師にお迎えし、『中学生の君たちへ　～性の問題・命の問題　ぜひとも知ってほしいこと　知らなくてはいけないこと～』と題してご講演いただきました。性や命に関する正しい知識を学ぶとともに、自分や周囲の人の命や人生を大切にすることについて考える機会となりました。

どちらの講演会も、多様な価値観を認め合い、よりよい人間関係を築くために大切な学びとなりました。長内中学校では、これからも「思いやりをもち、互いに深め合える生徒」の育成に努めてまいります。





編　集　後　記

文化祭活動を通して、生徒たちは「目標を決めて努力すれば、実現できる力がある」ことを証明してくれました。文化祭が終わり、次は何にその力を向けていくのか・・・▼学校生活は、華やかな行事だけで成り立っているのではありません。その多くは授業や清掃など普通の毎日です。大切なのは、特別なときだけ頑張るのではなく、日々の当たり前を確実にやり切ること。それが「自らの人生を舵取りできる自己指導力」を磨くことに繋がるのだと思います。▼長内中学校は、生徒たちが自己指導力を身に付け、人生を逞しく歩んでいけるよう、日々の教育活動も大切にしていきます。

【柏﨑】